女子青年界

第十五巻

四月號



齒磨界の最高權威たる

ライオン齒磨

新製中袋入の發賣

▼皆様御承知の通り、ライオン歯磨袋入には、小袋入と大袋入と特大袋入との三種がございます。

▼今回更に皆様の御勧めに從ひまして、ライオン歯磨「中袋入」と申すものを新規發賣する事に致しました。

▼「中袋入」は割合に分量豊富で、お値段も格安でございますから御家庭用に宜しい事と存じます。

▼その品質のすぐれたるとは勿論、体裁も高尚優美で、どなたの御目にも気持よい感じを與へます。

▼どうぞ小袋入・大袋入・特大袋入同様御愛用を願ひます。

▼「中袋入」にも景品券が添附してございます。

發賣元 小林富次郎

御用の節は『女子青年界』の廣告で見たと御申添下さい



前一

女子青年

大正四年七月號

第十五巻 第四號

界目次

日本基督教女子青年會
本部委員及幹事

委員長 井深花子　書記 三谷民子
副委員長 岡見恵子　會計 井上友子

委員
辻松子　ミセスフェールプス
長谷川喜多子　上代淑子
鈴木歌子　ミス・トリストラム
山田千代子　長尾ナミ子
ミセス・クック　ミス・ウエスト
松田道子　星野愛子
廣岡淺子　城戸順子
ミス・グーンス　志立タキ子
津田梅子　ミス・デントン
ミセス・クレメント　松岡鎮江
ミセス・フィッシャー　野村美智子
藤田貞子　井上レツ子
佐伯小糸子　ミス・ソール

總幹事 河井道子　幹事兼書記 ミス・ガンター
同 ミス・マシウ

前付六

一、銀器類
一、貴金屬寶石細工品一切

外國人交際用贈答用品充實完備
内地流行界より一歩づゝ先走つた品物のみ



○意匠、技巧優良
○價格低廉
○信用安全
○取引敏速

永年外國人向にて苦心の點は品物に現はれて居る筈です態々横濱迄御用命の甲斐あると確信致します

横濱市辨天通二丁目拾貳番地
辨天商會

生徒募集

高等女學科（五年程度高等女學校ニ同ジ）第一年級六十八人 二年級以上若干人

文部大臣指定 私立
横濱英和女學校

入學期日 四月八日
寄宿舍ノ設備アリ

横濱市蒔田町一二四
電話 四七〇九

女子寄宿舍＝曉星寮

位置 東京小石川區雜司ヶ谷町百〇八

目的 基督教主義に依りて家庭的生活を與へ、英語の研究を助く

費用 食費は物價の高低に依りて相違す。但し拾圓内外を越えざる可し。

主任者 主任者は日本女子大學校教授ミス・フィリップス

女子青年界
第十五巻 四月號
大正七年四月一日發行

會説

我等の欲望

河井道子

或時田舎の子供が叔父さんに一圓の紙幣を貰ひましたら、是では飴が買へないから一錢銅貨三個にしてと頼んだそうです。此子には三錢の方が一圓よりは遙に貴いもので、飴を箸につけ舐る方が、上等の菓子より結構で又菓子の別に欲いものがないのであります。彼の願は如何にも單純でありますが、若し何才になつても飴位で滿足する樣であつたらば、彼は白痴であります。希望や見地が益々伸展なくては人間に進歩がありません。併し又何を要求かゞ問題で害あるものを願ひ、又無益なものを求めるのも、矢張子供時代か白痴の狀態かを脱ないのであると思はなくてはなりません。三四才の小供が針や小刀を欲しがつたり、赤子が火を摑みたがつたり、犬猫を無闇に虐めたりする如き望が大くなれば犯罪となるので、趣味、嗜好の傾向は小供の時より側のものがよく注意て導かねばなりません。

一有力者が婦人に向ひ、若し此處に唯一の女子大學を創立せんとするならば、貴女は第一に何を望みますかと問ひますと、彼女は先づ第一に大きな洗濯場が欲しう御座いますと答へて非常に笑はれたと云

ふ事で御座います。此の通り私共は平素求むる所が狹く低い時に、突然何でも欲しい物を云へと云はれた塲合に、價値ある物を一つも希ふ事が出來ぬものであります。何を欲ふかと神に問はれ人に問はるゝ塲合に何と返事を致しませうが、私共の欲が絕えず小供の樣でつまらぬもの、危險ないもの、害になる物が欲しく、貴い高い潔いものを欲ふ事がないと云ふのも其心掛がないからであります。聖書のうちに愚なる欲ひをした事が幾つもありますが、其中に一人の母親が主エスの許に來て求ふには、何卒あなたの弟子になつて居ります私の二人の子供を、若しあなたが國王になられる塲合には、大臣にして頂き度と申しますと、主は其母の心をあはれまれ言葉優しく、「汝は求ふ所を知らない」と仰せられ、我は汝の子なる愛するこの二人の弟子に、我と共に困難をする光榮は與へる事は出來るが、我が右左に座すことは出來ぬ、又欲ふ可き事ではないと云はれた其の心を此婦人は如何に解したでせう。世の中の母が己が子が男の子なればどうか末には大學者、名將にしたいと願ひ、女なれば富貴な家に嫁せしめ、安樂に世渡りをさせたいと選擇の標準を轉倒して容貌、財產、技倆其後に性質、品行と云ふ樣になつて居る事が普通の樣であります、只正直な高潔な人格を持つ事を第一に欲ふて居る親が今日幾何ほど御座いませう。斯して見ると、米國大統領リンコルンの母親の偉大なる事を思はずに居られません。彼女は貧困の中に其子を保育して、平素息子に神を愛せ、人を愛せ、正直になれと云ふて決して將來は大統領になる樣になどとは申して居りません。それで正直息子と綽名されたと云ふ位子供時代からリンコルンは正しかつて後世世界人道の大恩人となり、今日も尙精神界に生きて居る次第でありませう。是非私共は何を欲するか願ふかと云ふ事に心をとめて居らねば非常なる間違を、自他に惹き起すものであります。

　神の實在を信ずるに何か超自然のものを要求るは古今同じです。基督の敵共は我等に休徵をなして見

ぜん事を汝に願ふと申しました。基督の人格、教訓又病を癒し、弱き者を助け、罪ある者を善人に變化なしつゝある神の能を山々目撃しながら、彼等は休徴が欲しいと願ふたのであります。この休徴と云ふのは何か自然界に變化でも起して、魔法師が魔法を使ふ樣な事を見せてくれと云ふた願ひであります、而し之を只昔の事にのみ思ふ事は出來ません、眞の宗教は占でない、手品でない、山師の樣なものでない、富籤でなく、正義人道高潔などに基すると云ふ事を心得ない者が、非常に多いではありませんか、眞面目に世渡りをして居る者を見て、それを神の大なる恩惠とし、又神の大なる業を思はずに、一攫千金の樣な事があればそれで神の守護があつた樣に思つて居る者が往々にあります、それで休徴があると信ずるなど云ひ、宗教は休徴でなく實行であるから、我々は神の子たるの行爲が出來る樣に祈り求むべきであります。

次に聖書の中に、愚な罪深い願をした記事中で著しいのは、ヘロデ王の前で舞をしたと云ふ其若い娘であります。王は彼女のもてなしを喜んで何でも欲しいものを與へやう、領地の半分でもやらうと申したに係らず、彼女は自分の母と相談をして義人ヨハネの首を盆に載せてくれと願つたのであります。實に其心の殘忍さを現はして居ります。而し又私共の周圍を見ますと人の名譽、地位、安寧を傷つけん事を欲して居る者が非常に多い事を見るではありませんか。のみならず正しい友人を忌避する事や、嫉妬等の原因からして同級生、同僚の間に悲しい事が絶えず起るのも、願ふ所が間違つて居るからであります。人の幸福を祈らずして却て患を願ふと云ふものは其末終にこのヘロデヤ母子の樣に義人の首をさへ願ふ樣になります。

今一つ書き度いと思ふのは、基督が死刑の宣告を法廷に於て受けられた時であります。裁判官ピラトは基督の罪なきを思ひ、之を釋さんと致しましたが民を恐るゝ憶病な彼は其責任を公衆に負はせたので

あります。それで其當時の慣例に随ひ、誰か一人の罪人を釋さなければならないので、基督とバラバと何れを釋さんと願ふやと彼は群衆に尋ねました、處が群衆は一聲に呼ばはり、バラバを助けて基督を十字架に釘けよと叫んだのであります。このバラバと申すのは城下に一揆を起して人を殺し牢屋に入れられた四人であります。遂に此謀叛人は罪あるに係らす放免され、基督は罪なきに係らず無殘の死を遂げられました。人民の願ふ所は惡人の味方をなし、善人の仇人となつたので惡魔に與して神に逆ふ事を願ふたのであります。以上の引照は愚かなる欲、罪ある願をよく代表して居る者と思はれます。私共は何を願ふて居りますか基督に來り見ゆる事を願つた盲人の様に或は己が娘を助けて貰ひ度と懇願した婦人の様に、或は罪ある我をあはれみ給へと詫びた税吏の様に其願ふ所が神の方に向いて居るか否やを考へなければなりません。今や學生ならば丁度卒業後如何なる方針をとつてよいか或は新學年に於て何を改めてよいか非常に迷ふ時であります。又家にある人人ならば春が來た故、何を着てよいか、衛生は如何にすべきか、旅行を何處にしようかなど、色々の計畫のたてられる時であります。私共の欲が只娯樂の爲、名譽の爲、安樂な爲であるならば、實に危いものと云はねばなりますまい、此時に當り神の前に平伏し、神よ我を導き給へ我家庭に神の光を示し給へ我に愛を増さしめ給へ、我心の儘をなさんとするに非ず、聖旨に任せ給へ、我罪を釋し我を清き者となし給へ、御名を崇めさせ給へ、御心の天になる如く地にも行はせ給へと云ふ様な實に基督の教へられた様な祈を希望したいものであります。斯くなる時には春の美しさは皆我ものであります、否それのみならず聖書にある通り萬物は皆吾等のものになり、眞の自由幸福が我々を取捲くでありましよう。

講演

怖れなき生涯

大阪北教會牧師　桑田繁太郎

恐怖には色んな種類があつて、小供は暗黒や廣大なもの、或は知らぬ人などに不安の恐を以て居る。野蠻人は自然界を知らないから、電光、風雨、月蝕、日蝕等を非常に恐れる。而し子供は大人になれば、其恐は消え、野蠻人が知識が進んで文明に入ればこの恐は消えるのである。而し我等の内に一種の恐があつて毒薬の様に心を害するので、如何なる勇氣も之に當つては駄目である。この内なる恐とは何であるかと云ふならば、人間は自分を恐れるので、自分の小さい事、自分があはれな者である事、自分の孤獨であると云ふ事の恐があり、又死と云ふ非常な恐怖が絶えず襲ふのである。之に對して古今の詩人、學者も色々に説明し又詠ふて居る。又吾々のうちには良心があつて其良心に從はざる時は、非常な恐がある。石田光成が裏切つて家康についたが、只一人部屋に居つた時、障子の倒れたのに非常に驚いた事や、又近頃押川氏の自殺をしたと云ふのは、其中に非常な良心の恐怖と云ふものが附隨ふたのである。

己を恐れる外に、人は又他人の爲に恐れる、愛する者の爲に非常に心配をする、例へば小供が病氣になるとか、或は彼等が品性を傷つけるとか、保安を妨害する様な事があれば、非常にそれを心配する。エスの十字架の恐怖は其愛する弟子、又同胞を心から思ひ給ふて、惡魔の手が彼等を縛つて居る運命を

思はれ其を非常に恐れられたと見るも宜からう。この外より來る恐れは辭する事も出來るが、内的の恐怖は之をどうして宜いか解らない、恐怖を脚下に踏むと云ふに依つて人物が量られるとカーライルが云ふたが、大なる人物には又種々なる恐怖がある、それは名譽を傷つけられる、地位、聲望、人格を傷つけられると云ふ事が彼等にとつては非常な恐怖であります。而し神の前に立つものは其以上の恐怖を持つて居つて、人間の評價は何とも思はないでも神の前に於いて罪深い事を恐れ戰慄くは、神に近い人種に多くあつて、正道を行ふ者には恐怖がないと云ふのは僞になつて來る、即ち正しい人間は神の前に己を罪深い者とするからである。然らばこの恐怖をとつて仕舞ふ途はないかと云ふならば、確にあると斷言するのが聖書の敎訓である。「爾曹が受けし靈は奴たる者の如く復び懼を懷く靈に非ずアバ父とよぶ子たる者の靈なり」(羅馬書八章十五節)之に依つて見れば、神に對する子の心はこの恐怖を確にとるものである。恐怖と疑惑とは雙兒であつて、不信は恐怖である。先頃自分の小供が死に瀕して最早眼が見えなくなつた時、我等兩親はその側に行つて、お父さんが此處に居る、お母さんが此處に居るとよく聽かせた其時に、眼が見えないでも親の聲を聞いて親が側に居ると云ふ事が分つた時、子供の心にあつた非常な寂莫がとれた樣であつた。人生は不可解であつても、又神自身が見えないでも、我等神の聲を聽くならば、それで滿足して寂莫の念がとられて安心して世を渡る事が出來る。

宗敎は子心であつて、僕たる者の如く恐怖を懷く靈ではない、アバ父よと呼ぶ子たる靈である。理性を以て解らないでも宜しい、若し神の聲を聽く事が出來、又神を父よと呼ぶ事が出來るものならそれで宜しい。ウヰリアム監督か文化三年日本に渡つた其當時攘夷熱が盛んで物騷であつた。彼はピストルを持てと云はれたが決して持たなかつた。神を信じ神を父よと呼ぶ者には、恐怖がないと云ふて居つた。

宗教的神を畏ると云ふ事は決して恐怖ではなく、敬虔の意味である。其處で神を父と呼ぶ人には、又一方で敬畏の畏はある、それでジョン・ノックスの碑文に「神をおそれて人をおそれざるの人」と云ふのも、其意を察する事が出來る。吾々にイエス基督の靈を宿すに非らざれば、神を父よと呼ぶ事は出來ない、只聖書の中にある基督を知つただけではいけない、吾等の心の中に鎮座して居られるのでなければならない。即ち神の子たるの基督の靈が吾々の心の中に宿つて、此處に初めて眞に神を父と呼び、それを以て何事をも恐怖する事なく、世に勝つ事の出來る唯一の道である。（文責記者）

東京女子大學に就て

新渡戸稲造

僅か五十年前迄は教育其物が大して必要のものとも思はれなかつた。況して女子の教育に就ては女大學で萬事足れる樣に思ひ、高等なる知識に至つては尚今日とても其必要を女子に就て認めない人も少なくない。之に加ふるに基督教的高等教育となると、不必要所ではない有害の如くに思ふ者も多い。

今回設立されんとして居る東京女子大學は、名には現はれて居らぬが基督教主義でたつ考へである。勿論知識其物に宗教的色彩をおびる譯ではない、又科學には宗教の色彩を附する事は禁物である。此點からして、ともすれば宗教は高等なる知識の爲に、却て害がある樣に論ずる人も世間澤山ある。又斯の

如き議論を確める事實は不幸にして甚だ多い。嘗てドレーパーの書いた「科學と宗教の奮闘」の如きは、今更誰も承知して居る事柄で、其後に至つてホワイト博士が同じ問題に就て有ゆる方面から實例を擧げたのを見れば、如何に基督教が中古より最近に至る迄、學術の研究の邪魔をしたか明かであつて、基督教の爲めに辯解するに苦しむ。故に基督教主義で高等な學府を設けるのは矛盾の謗を逃れん樣に考へる人もあるが、之に就ては抑々高等知識とは何だと云ふ事と又基督教たるものは何だと此二つの問題を明かにしなければ、恰度論理學で何事を論ずるにしても名辭の範圍が一定しなければ何の議論も出來ないものゝ如く、或人は基督教なるものに就ても解釋を頗る狹くとつて居る、殆んど迷信的に守つて居る人もある。又進化論を見ると聖書に叛くものゝ如く考ふるのは恰も四百年前地球圓形説を以て非基督教と思つたと等しい。要するに基督教を以て聖書に書いてある教にのみ限ると信じ、其聖書を讀むに現今の學術知識を更に辨まへない狹い思想を以てする者もあるが、斯る人の基督教は無論現今の學術と相容れないのみならず、普通の常識とも相容れん事さへある、基督教は決して吾人の狹き知識を以て讀み違へて居る聖書の教に極限する譯ではない。又高等知識に就ても兎角世間に誤解される、何事に依らず耳新しい事なれば最近學説と心得る早合點の連中は世に多い、吾々書店に行つて最もよく賣れる書物を聞けば、去年出來たものより今年の物、今年でも先月出來た物より今月と云ふ樣に只新作でさへあれば進んだ物と認むるは世の常である。然るに焉んぞ知らん、人間の最も知る可き最も尊重す可き最も高い知識は最近の學説よりは最古の教であつて、何千年經つても不朽で、何處に應用しても誤らぬ永久的にして、萬象に照して益々根底を固むる底の眞理こそ、最高等の知識とも稱す可きものであらう。聖書の貴いのは一つには玆に存する。聖書の中に記してある事に非道德的の事も少なくない、折々は家庭で朗讀し能

はざる件もある、又一見して文字通り解釋すれば非學術的な記事も少なくないけれども、今日迄幾多の學者が之を攻撃し幾多の政府が之を嚴禁したか知れぬが、二千年經つても之を繙けば今朝の新聞を讀む如き新しき事實或は眞理を發見する事がある。

我輩の基督敎的新知識を得ると云ふのは虛心平氣にして更に一點の私心なく、角は角、圓は圓、柳は綠に花は紅と物其物を其儘に見る樣な淡い態度を以て萬象に對するのが基督敎態度と稱し度い、之れ即ち心の内外の事物に對する敬虔の態度である、此態度がなければ眞に高等な知識は得難いものと思ふ。成程肉眼で見えない物は顯微鏡に依つて觀察し能ふ若しくは展眼鏡を以て眺む事は出來る、然るに之は形而下の物質の研究に止まつて、天體の運動の理の如き到底肉眼や機械で盡し得るものではない、機械で達し得る知識は中等の知識で、最高の知識は心的作用を待つて初めて得られる、斯く云ふて決して科學的研究を輕んずる意ではない、より以上の眞理に達する道と思へば科學の發見を深く尊重するけれども其丈で止まるを以て滿足すべきでない。

最高の知識と云ふのは、普通に云ふ知識の働きではあるまい、或は知識なる文字は當らんかも知れない、ナレヂではないウイスドムである、佛敎の所謂摩那識、或は阿賴耶識と稱するものは即ち之であらうか。僕の偏に希望するのは學問に志す者はこの程度迄に進んで貰ひ度い。

此所まで進展した人は如何にも淡いから一寸俗眼を以て見れば、誠につまらぬ匹夫の如く、時には愚昧の如き外觀を呈するが、恐らく具眼者より見れば、忽ちにして、その非凡なる所が解かる。仍で世間では利口相な者が賣れ行きが好いから、世間に通用し易い知識を求めるのは當然の事であるが、苟くも宗敎でも奉する位の了簡ある者は見榮の如何は敢て問ふべきであるまい。人を相手にせず天と交はる心を有する者は最高の識に達するやうに心懸けべきである。

今回開らく女子大學の希望する所も最高識を得るにある。物知りを作るより眞面目なる人格を築くを以て大任とする。賢き人より確な人を出すを以て誇とする。良妻賢母より崇高なる人物の教養を以て目的とする。
一度人格の根底を養ふを得ば、知識や技藝は自ら高まることを信ずる。君子は器ならず。從來我邦の教は婦人を一種の器と見做したが、今猶その傾きがある、又西洋に於ても幾分か同傾向は全く跡を絶たないけれども、文化の進歩と人の思想は女子の人格を完全に認むるにあらざれば止むまい。女子の高等なる基督教的教育は率先して、此の進化と思想を助長する使命を有する。

高等教育を受くる女子に

第一高女教頭　市川源三

高等教育を受けようとする若き人々に、一言したい、題目を替へて云へば、若き人々の行く可き道と云ふ事であらう。そして高等教育を受くる此等の人々は一通り高等女學校を終つたものと假定してお話する。

□高等女學校は賢母良妻の學校でない

高等女學校を賢母良妻を養成する學校であると、世間の人が云つて居るが、それは間違である。若しさう云ふ事が女學校に云へるならば、中學校は賢父良夫を養成する學校でなくてはならぬ。其は一片の

理屈で云ふのでなくて、結局高等女學校に於て施してゐる一般の教育を見るに、賢母良妻の教育はして居らない。女學校に家事とか裁縫とか特別の學課があるものであるから、それを目して賢母良妻の資格であると云ふかも知れないが、其は誰でも女子には必要な學課である、特に良妻賢母に必要なる資格の一つではあるが、其れ一つを以て賢母良妻と云ふ事は出來ない。斯は云ふもの丶、私は決して女學校を出ては妻となり母となれないと云ふ意味でもなく、或は又なるのは不可と云ふ意味でもない、特別に良妻賢母の教育が出來て居らぬと云ふの意味である。特別に其の方面の教育の出來て居らぬのに、それを標語とするのは、羊頭狗肉である。其れなら女學校で、賢母良妻の教育を施したらどうかと云ふ問いが出るかも知れぬが、私は女學校では出來ないと思ふ、又實際して居る處もない。第一、十七歳未滿の者では餘りに若過ぎる、又尚他の方面より云へば、此位の時代には基礎教育を専ら與ふ可きもので、其れ以上に出る了解力もなければ又時間もない。

□高等教育の必要

私は女子の高等教育を必要と考へる、勿論高等教育が凡ての人に必要とは云へないが、男子に十萬の高等教育若しくはそれ以上の教育を受けて居る者があるならば、少なくも婦人にもそれと相當の數に於て高等の教育を受く可きである。而し實際に於ては十分の一或は百分の一に過ぎぬのである。斯うは言ふものの女子の高等教育を誤解して男子と同樣の教育を授けるのだとするのは間違である。世界で米國は最も女子の教育の進んで居る國であるが、女子に眞に同情ある人の議論を聞くと、女子の高等教育は贊成であるが、男性的高等教育を其儘燒き直しでは無理である、何處迄も女子と云ふ自信力寧ろ自負心を發揮する高等教育でなければならぬと述べて居る。日本の如く餘り高等教育の盛でない國では、將來諸外國で見た弊害の起らぬ樣にあらかじめ注意するのは此點である。其處で私は女性的高等教育は女

の特性を失はぬ高等教育で、更に云うて見ると賢母の意味をよせて居る高等教育が心要であると思ふ。

□賢母か良妻か

賢母良妻と云ふ言葉はよく人の云ふ言葉であるがよく考へて見ると、この言葉は必ずしも一個の人に要求する資格ではない事がある。もと〳〵不完全の社會の故でありませうが、今日多くの男子の要求する良妻と今日吾々教育者が考へる賢母と、この二つの觀念は抑々矛盾して居ると思ふ。實際家庭に於て良妻でも、夫婦關係に於て良妻でも、子供に對して賢母でない母はいくらもある。又其と反對に子供に對して賢母であつても夫に良妻でないと云ふ場合がある。勿論夫が立派な人格の人であるならばこの矛盾のあらう筈はないが、今日の男子と云ふ者は教育の有無を問はず婦人に對する態度が出來て居らぬから、良妻は寧ろ情婦にある樣な性質の者を要求して居る。又此の氣分を有した者が良妻であると思つて居る。一例を云ふならばどうも妻が夫の機嫌のとり方が下手だから、藝者かひをするのも仕方が無いと云つて居る。之は即ち妻に要求するに情婦に要求すると同一のものを要求して居るのである。其所で立派な人格を有する夫に對しては良妻と賢母とは合一するが夫のよく無い場合には合一しない。然し多くは合一して居らぬ。之は私が多くの事實を背景として云ふのである。其處で女子の高等教育に於て良妻の資格を主とす可きか或は賢母の資格を主とすべきかと云ふに、勿論賢母の資格でなければならない。カトリック教では聖母マリヤの像を掲げこれを崇拜する。マリヤが良妻だとは聞いたことはないが、その熱情、慈愛、洞察力が表情に現はれて居る、之を婦人の理想とするならば、やがて賢母の思想である。之には何等訂正を加へずして、日本でも此思想を以て女子が高等の教育を受く可きである。

□然らば如何なる心得

高等教育と云へば多くの人は直ぐに職業教育或は女子の獨立生活の準備と心得る。勿論私は婦人に職

業を授け度い、又婦人をして經濟的獨立をさせたいのは私の持論で、今も尙研究をして居る。然れども女子に職業を勸めるにしても、必ずしも男子と同じ職業を狙はなくてもよい。寧ろ女子に適當の事をする方が收入も多くなり地位も高まる。一體婦人の收入の少ないのは職業の種類によるのでなくて、社會が婦人に對する尊敬が少ないのである、若し婦人の尊重がよく行はれて行くならば、必ず收入も多くなる。女に特別の職業の善いと云ふ事は極卑近な例で云へば、女髮結とか產婆の如何に收入の多いかを考へればわかる。其處で女子の高等敎育を受ける際には何處迄も婦人たるを忘れぬ事、どうか婦人の特色を發揮し度い、婦人の自重心を毀損する事なく何處迄も續け、職業を選擇するにも此心掛が必要である。或は母になる人も母にならぬと覺悟する人も、同じ心得を以て敎育を受くるがよい。一體高等敎育を受くる婦人はどちらかと云ふと獨身に傾かんとする、之は獨立に傾かんとする人が多く高等敎育を受けるから仕方がないが、學校敎育が男子風に流れて、母の資格とか結婚とかに觸れない樣に敎育するのも一原因となつて、遂に好機會を逸するのである。私は高等敎育を受ける力のある人は、國家から見ては非常に重要である、其は單に知識階級だと云ふのみでなく、其人の遺傳も其才能を有するから將來國家の中堅となる人を產出する事が出來る。中堅となる可き人が結婚もせず、子供も產まぬと云ふのは、國家の不利益人類の損失である。戰爭などと云ふことは立派なる人類を保存せんと思つたら、到底出來るものではない。世界の平和、人類改良等を稱へる私の立場よりして、女子の高等敎育を受けて結婚するのは熱望する次第である。女になる知識、結婚に對する知識は常に敎育し、又其生活も學ぶ可きである。この議論は只女は結婚しなければならぬ、女は只子供を生まねばならぬと云ふ簡單な意味でない事は、私の結婚論を述べなければ解らぬが、其は他日を以て述べる事にしませう。（了）

私の母

北米加州ポモナ大學總長　ブレスデー

私は皆さんに私の顏をよくみて戴きたい、しかしそれは、私が美男子だからといふのではありません、又巨萬の富を有してゐるといふからでもありません、むしろ、私は何時も何ものかに資本を投じる時は却て失敗に終るのです、それでは何故かといへば私は非常なる幸福の男であるからです、其幸福であるといふ事に就て之れから御話いたしませう。

私には只一人の母があります、母は貧しい片田舍の農家の娘でありました。其當時は、女子に學問を授けるといふ事は非常にむづかしい事でした、けれ共母の父は學問が女子にも大に必要である事を感じまして、種々なる困難を排して、メリ・ライオン女史の經營に係る女學校に入學させる事に決心いたしました、此の女學校は米國で女子に高等敎育を授くる魁をした校で、今日もマント・ホリヨク女子大學は、宗教界、教育界、社會や家庭に立派な婦人を出して居ります。夫れ以來母は全力を盡して勉學いたしました、そうして十九歳の時に卒業しました、其卒業の時に堅き決心をした事は「一生を通じて勉強する事」と「博く世の人を愛して其の人々のために献身的につくそうといふ事」とでありました、それで母は、爾來九十歳に至る今日まで女子の苦學生のために大に盡しましたのみならず、神の惠の偉大なる事を世の人々にしらしめ、專心傳道につくしたのであります、かゝる母を持ちました私の家庭は實に模範的の家庭であります、尙私の妻も母と同じ學校を卒業したもので、妻に就て申上げたい事もありますが時間が許しませんから略します、とにかく私は幸福であると前に申ました理由がこれでお解りになつたと思ひます。さて皆さんに望みますのは、學校を卒業してなほも私の國へ來て勉強したいといふ方、また、生徒だけでなく、私の學校の敎師になつて頂

くといふならば、非常に歡迎をいたします、どうかかゝる事の實現せられん事を望むのであります。又、家庭の人となられた曉はどうか私共のやうな惠まれた家庭をつくられん事を切に祈るのであります。

田川いくよ夫人

田川いくよ姉は田川大吉郎氏の御夫人で、波瀾多き政治家の妻として辛苦を忍び其任務を全うされ、二月十一日愛らしき七人の子女を殘し、安らかに天國に逝かれました。夫人は蒲柳の質で病勝ちであられたにも係らず、病苦を人に訴へらるゝ事などなく、國事に身を委ねらるゝ夫君をして内顧の憂なからしめられた事は並大抵では御座いません。夫人は子女の衛生教育に就ては殊に心を用ゐられ、小學へ入學さるゝ時などは、一週間程は小供と一緒に學校に行かれ、二三時間も參觀をされたり、又病氣でもさる事があると、重くなつてから急に騷いでも間に合はぬと云はれて輕きうちに斯界の大家を招かれると云ふ具合に、萬事に心を用ゐられたさうで御座います。又如何に子女を愛されたかは、去る一月病重くなられた時「幼兒の愛にひかれて今暫し此の世の旅路願ふなりけり」又或る時は「愛し兒を神に託ねてたゞ一人天の御國を仰ぐけふかな」と詠まれたこの二首で慈母としての夫人の御胸中がうかゞはれませう

又夫人は子女の教養に心を用ゐられたばかりでなく、書生や女中に對しても情深く、田川の家に來て何か出來る樣になつたと云はれないでもよい人間になつたと云はれる樣にと常に暇をつくつて教會に出され家庭でも時々感話抔されたさうで御座いました

夫人は至つて謙遜な方で外に餘り働かれませんでしたが、神の爲人の爲に一生を捧げられた美しき御生涯は如何に多くの人に感化を與へられた事で御座いませう。終に子女教育の大任を託ねられた芳野姉の上に神の御祝福豐ならん事を祈る次第で御座い升

ギヨン夫人傳

――ウフハム氏の傳に據る――

森田松榮

マリは或日、滅多にしたことのない散步に出た。やがて歸ると、留守の間に、從兄のトイシが、東方へ外國傳道に行く途上、立寄つたが、もう去つたと云はれた。家人達は、敬虔な靑年、異邦人の救に一生を捧げやうとしてゐる若い聖徒の言行を、深い感激を以て彼女に話した。これは彼女を非常に感動させた。彼女は自分を從兄に比較した、そして、著しい其對照に戰慄した。幾度神は自分を召し給ふたか。而も御聲をきき乍ら、從ひまつらなかつた。從ひ奉つたにしても、一時で堅忍しなかつた。彼女は自分の全靈の過去と現在とを省みて、叫んだ。

「あはれ、神のみ心に逆らひ奉りし爲に、如何ばかりの悲愁をば今われは受くるよ！　何らの悔恨、何らの哀叫、何ら悲嘆の涙ぞや！」

彼女は涙を拭ふて立ち上り、一心こめて靈魂の救の爲に生活しやうと努めた。彼女はまだ信仰に由て義とせらるゝといふ信念に到着することは出來なかつた。然し非常に激情に支配され易い彼女には人一倍つらい努力の生活を、專念實行した。彼女は自分が氣を惡くさせた人々の赦を乞ふた。これはどんなに難かしいことであらう？　彼女は貧しい人々を訪ねて、食物や衣類を贈つた。又彼らに公會問答を敎へた、多くの時間を、靜かな讀書と、密室の祈禱とに過した。シャンタル夫人傳や、セールの聖フラン

シスの書を、購つて來て精讀した。救主の聖名を大きく書いた紙片を、身につけて、斷えず聖主を憶はふとした。美しい動機の、然し悲しい謬見から、種種な難行苦行に身を委ねた。何事をも、爲かけておくまいと決心した彼女は、シャンタル夫人に倣つて、常に最高の完全を目標とし、一切の事に、神の聖旨を行ふといふ誓を立てた。健氣な少女よ、彼女は自己の努力を恃み過ぎた！　彼女は一意專心、信仰の馳場を走らうとしたのであるが、己をのみ恃んだ力は盡きた。然し、悲しいけれど、無理もない事には、彼女はまだ福音の眞髓に徹しなかつた。今迄の生活は救ひの希望を實現しなかつた。彼女は尼となつて救を獲やうと決心するに至つた。然しこの願ひは、父に碎かれて了つた。父は彼女を愛し、その信仰が深くなる樣にと、熱心に願つてゐたのではあるが、家を棄て、世を遁れずとも、彼女が信仰を深めていくことが出來ると信じてゐたのであつた。

若い彼女の魂の努力の失敗と、困惑と、混亂とを、彼女以上に知つてゐ給ふた方があつた。彼女は凡てそれ等の必要を認めなかつた。否それのみか、早くそれをのがれんことを熱望した。然し、やがて偉大な使命の任を負へるイスラエルに、荒野の四十年が必要であつた樣に、等しく偉大な使命を負はせやうと、神が定め給ふたマリアには、これ等はなくてならぬものであつた。然し少女は、それをまだ悟ることは出來なかつた。

マリアは、今迄洋々としてゐた、信仰の前途が、突然行詰つたやうに感じた。靈魂にとつてこれほど、危ない時があらうか？　彼女は十五歳であつた。彼女の信仰が漸くその熱を失ひかけてゐた時、暫く彼女の家に滯在しに來てゐた青年は、彼女を深く愛する樣になつた。彼は若年ながら、才學兼備、宗敎的情操に於ても、甚だ秀でゝゐた。彼女も彼を慕つた。彼は遂に結婚を申込んだけれども、マリアの父は、兩人が近い親戚關係であつた爲に許諾しなかつた。彼女は反省した。苦い悔恨の情は、感じ易い胸を强

く刺した。彼女はしばしなりとも祈禱をやめてゐたこと、神の中に見出でたことを、人の中に求めたこと、謬まつた愛情に浸つて、神を離れたことを、心底から痛悔して、「ああ神よ、われまづ汝をはなれしがゆゑに、汝われを見棄て給へり」と泣いた。

端麗な容姿、優雅な態度、高尚な教養は、必ずしも內的の清淨、純潔と伴なふものではない。否時として、道徳上、宗教上の叛逆が宿つてゐることさへある。然し、皮想以上に透徹する力のない世間の眼には見えない。そしてマリアのこの頃の生活は人からは責むべき點はなかつた。そして道徳的に缺點があつたのでも決してなかつた。たゞ、彼女は、自分が神を離れてゐることを悟つた。然して、神を離れて彼女の心は「生垣裂き倒されて、すべての動物の蹂躙に委せ、劫掠に曝されたる葡萄園なることを知つた。

一六六三年、彼女の一家は巴里へ移つた。當時は豪奢を極めたルイ第十四世が位に即いてゐた。王はパリを文華の中心とすることに努めた。一方に眞正な文學や美術があると同時に、他方には、浮華な逸樂と虚榮とがあつた。謙虚と、眞面目な反省と、內的生活は影を隱して、誇大と、刹那の氣分と官能生活とが勢ひを得てゐた。一切の狀態は、堅忍不拔な信念にとつても、峻烈な試錬であつたらう。まして、年若いマリアに、善い感化を與へることは難かしかつた許りか、一家を擧げて、この大都の厭ふべき風潮に幾分感染したのであつた。

彼女はすぐれた才智と、強い情熱とを以て、巴里の社會に入つた、丈の高い立派な姿、優雅な人好きのする態度、秀でた讀話の才能、晴々した眼、隆い額、希臘型の美しい顏は、自ら威嚴があつて、深い尊敬の情を起させると同時に、その愛嬌は人の心を牽きつけた。

活動に富める大坂市部創立委員

一幹事

大阪市の女子青年會は北區東梅田町二百七十九番地に移轉致しました。場所は梅田停車場から二丁位で便利な上に靜か至極よき處であります。純粹の日本造で飛石のある庭に面して、離座敷も一間ありまして、幹事等の住宅兼集會や組の爲に都合よく出來て居ります。三月六日に大坂の信徒婦人が十九名此處に來られ、愈々市の女子青年會の創立委員が揃ひました事は感謝に堪えません。來會されし中よりして廣岡淺子夫人を委員長に、濱寺の石神、大塚兩夫人を副會長に、高安夫人と坂部とみ子夫人とを會計に選擧して、兎も角來る六月までに三百人の特別贊助會員を男女を問はずして募集することに可決しました。第一創立委員の數を參拾名とし一人が拾人の特別會員を得るときは直に三百名を得るを以て各自より會費として年拾圓を拂ふ樣になし年金參千圓を以て此新支部の經營を計ることに滿場一致して可決されました。實に大坂信徒婦人の勇氣あるのと、協力の實行とには敬服致します。

三月十九日に再び集りを開き、創立委員やら、知人やらに御出を願ひました處三十餘名の出席で、星野、淺井の兩夫人が主人役をなして茶菓を饗され、ピヤノ彈奏、獨唱等もありました。しかし當日は協議に熱心の餘り御客樣方を待遇ことに充分盡くさゞりしは、幹事等の手落で御詫びの外ありません。其を思ひ歸途汽車中で濟まぬ〱を獨言に申しつゞけてゐました。其代りに委員方の協議はドシ〱心持

よく運びました。第一に決したことは四月廿七日の土曜日午後に天王寺の公會堂を借りて女學生大會をなすことです。「貴女が順序書を作り印刷役ですよ」と申すと、「おや然ですか、出來る限をしましよう」と快諾があり、「廣告が大變、誰か御願が出來ますか」といふと、「私が新聞に出すのと、教會へ報知と、所々に貼りつけるのを引受けます」。「其ならば私は女學校の方を引受けます、奥さん貴女は何をして下さいますか」と問はれし隣の婦人は「私に出來る事なら致しますから仰付けて下さい」との元氣よさ。其で直に萬事が整ひ、當日は梅花、プール、ウキルミナ三女學校の上級生にコーラスを歌ふて貰ふことさへも定りました。講演者に知名な男子の先生を一人加へて申出ると、女子だけで何故不可かと反問す、矯風會は今年の大會には女子のみですと林歌子女史は加勢をして下さる、實に皆が腹藏ない相談で、如斯美しき、元氣ある有樣を他の婦人會に御目にかけ度とおもふは慾目でしようかしら。

財政上も中々有望であります。既に星野夫人は基本金へとて金壹百圓を寄附され、廣岡淺子夫人は事務所設備のため金五十圓を寄附され、數名の方は友人達より會費を集めて御持參なさるなど、何處までも用意周到であります。委員一人で拾人の特別會員を作る事は容易でないが、其をやつてみますからと快く申して下さる姉妹方は千萬圓以上に貴重のであります、大阪市の女子青年會はかゝる委員を持つとは何と有富ではありませんか。夕方歸りを急ぐが自然のなかを、十數名の婦人方は居殘て、宗教部、社會部、教育部、體育部、社交部、財政部、其に委員三名と委員長とが定まり、御互に辭退もせず、協力せんとの言葉を殘して、嘻々として家路に向はれし頃は電氣が入用の時刻でした。神は必らず此擧を祝して大阪婦人界に奉仕の道を開き下さる事と確信いたします。

如何にして信仰に入りしや

上海　一信徒

一月福音新報に信仰の感化と題して上海の一信徒の信仰告白が略記されありしが、多少相違の點もあり又公に世間に紹介するものならば、いつそ委しく其事實を揭げんかた宜しからむと思ひ、記者は其本人に書面を贈りて、公にするを許可されたしと願出しに至極謙遜なる態度にて、承諾を得しのみならず左の記事の寄稿ありしを以て此處に揭載す、但し紙面の都合上省略多きを謝す、近き中全部を小冊子となし傳道の栞に用ゐらるゝ事なるべし。

「私の信仰に入り基督の私に働き給ひて、深き愛の神を崇め奉るに至りし動機と經路は、大正三年二月實母を亡ひしより起りし樣覺えられ候。私は神奈川在の農家に生れ學業は小學校さへ卒業するに至らず農事の手傳に忙がしく、後神奈川より支那迄參りて既に十二年、其間に勉强せしは一時にて多く惡い事を習ひたるにも係らず、全く御陰の裡に無事なるを得、勤先よりも失策勝なりしにかゝわらず重用されたるに馴れて、自分の働きなりとか、男の甲斐性とか又は商賣上必要なりとて盛んに酒を飲み、汚れし行爲のみ致し、妻を何時も泣かせてのみ居り候時に母はそれとも知らず、一日、十五日など變りし物出來し時はかゝさず陰膳とやらをすへ、鎭守の宮へ參りて此の放蕩なる三十男の私の爲めに、厄年などは鹽斷ちなどして無事と成功を祈り呉れ候事は知りつゝも、左程には思はず過し候に、大正の始めより母は病氣に罹り臥床する身となりし故、私も大正二

年夏には危篤との事に見舞にかへりしに、死に臨みても私の爲に何から何まで先々の相談を致し、且喜びて幾分快方に向ひたりし故、私は或は葬儀にもと思ひて幾分準備して行きし金は、後に肉欲の爲に無駄費ひに爲して恥ぢざりし程の代物に候。母の病氣の始め床づれ出來たりと聞きせめて上敷にもなりと六圓五十錢の二枚つゞき毛布を送りしに、我子よりのものなりとて喜び、出來て居りし床づれも癒り二年の臥床中再び床づれの出來ざりしを如何に度々感謝して居りしが。大正三年二月漢口へ旅行中母の訃に接したる時は頗る悲しき思ひに滿ちて、母の患ひなりし私の酒を十日間漸く止めて手向の印になし候が、其は私には中々の努力にてありし位にて、私は酒に捕へられ居り候ひき、然るに後にて分りし事は母の死ぬ日までに嘗て相談せし事は總て出來しには荒み果てし私の心にも偶然か因果かと不思議の思ひに一時滿され候。然るに煩悶と淋しさを増すに隨ひ酒は倍量を增し來りて失策や危い目にあいたる事幾度も有之候ひしも、幸に勤むる店の好景氣の爲に御蔭に浴し居り候、其頃勤むる店にて、店員の爲に本願寺の僧侶の佛教精神講話を月二回づゝして貰ふ事になりたるに講話の後に夫々質問など膝詰めにてありし爲、私も種々化論を仕かけなどして、其材料の爲にお經の文句をかぢりたるに、幾分趣味も加はり且母を失ひし淋しみも覺えて宗教に來らんとしたれども生活狀態は依然たる酒色の下に耽溺して居り候僧侶も又自ら紅き顏にて講話致し居り候ひき。然るに其前より大阪に或店の出張員にて私の勤むる店に來られて共に地方へ出張、得意先訪問及賣込み等を爲しつゝ、多く寢食を共にする此人が實に見事な基督者にて殊に其頃正義なる神、誰にも偏頗なき愛の神に付き其所說通りに實行しつゝ、社會的上役等が自分勝手の理屈を附けて、曲つた事をするを難じ、惡との妥協や、方便を一切しりぞけて商賣上必須と思はれし酒の如き勿論一滴も口にせず、行爲に於ても感心する人と友となりし爲に、一方に感ずると共

に一方に反抗的に酒の必要や耶蘇教の惡口やを申して、佛教のよき處を舉げて彼をもつて負かしてやらんと淺墓なる考へより大内青巒師の「般若心經」の講義其他を讀み且講話に來る僧侶にも熱心に質問したれど、僧侶は何時もきわどき時には方便とか塵埃草木此佛性善惡無差別などゝ難かしき哲理にて私共には解せず、且心經の眞空の理には感心したれど、吾が眼前の事には氣附かず、其頃私は酒の爲に身體麻痺する位にて、酒氣去れば元氣衰へ、手足ふるへ、相當に呑み居れば鼻先と口先は中々景氣よく見えたるも、心や考へは常に薄雲に閉されたる如く、いやな心持のみ續き來り候。のみならず罪なき妻まで病となり煩悶に耽る樣に相成り候。

時に基督者たる其友人に尋ねれば、善いと思ふ事はやり惡いと自ら思へば絶對に止す事、酒の如き理屈をつけ彼是迷ふ可きものに非ず、正しき道には二つない故、從へば順となり、逆へば逆となる。之を取には眞心の自由のみと、確りとしたる應答振りにしなびたる心身に如何に力を得しか、又其友と旅行するに毎朝聖書を定めて讀み、他の讀み物も善き物ばかり讀み居る傍には、私は酒を飲み碌でなき事のみ致して得々たるを裝ひながら内心頗る感じもし羨ましくも思ひ居り候ひき。

大正四年春其基督教の友と倶に旅行して「漢口」に至りし頃は、佛教基督教の表面聞かぢりを人にも語り、酒の場所や藝者等相手に話したりして物知り顔して居り候、或夜の事、商賣上の交際にて宴會ありし後、泥醉し亂舞、亂痴氣は勿論、果ては賤しき惡麗の振舞をせんとせし刹那、嗚呼其刹那(午前三時)「ハッ」として何物にかおそはれたる想ひ心の内にこたへて身は戰慄致し候、此れこそ私を魔の手より救ひ給ひし靈の叫びなりしこと、後に至り今に至つて強く感じ申候、慚愧なるか心の奥より涙は滲み出でて、是迄の私の腑甲斐なかりし事、口と行との雲泥の差なりし事、斯かる惡者もよくも大道を恥かしくなく歩き廻りしか、想へば恐ろしく愧かしく、且自

分に愛相がつき彼是想ひ亂れ候、而も其内にあり微かに愛の神の導きの聲を聞く如く覺えしは、私の如き頑固なる放蕩者、酒呑みにも神は常に在して常に悔ゆる心を起さしめたるも、其れを聞かざりし故、斯く病氣、不信用、墮落、煩悶等の鞭を以て實に永き間に渡りて私を敎へ早く醒さん爲には、斯く迄多くの犧牲をさへ忍びて用ひ給ふに非らざるかと考へ付きし時は、友より借讀せし「自然と人生」の中にありし「さまよへるものよたちかへりて、あまつふるさとの父をみよや、罪惡を悔む心こそは、父よりあたふるたまものなれ」と云ふ歌をあり／＼と思出候。直ちに旗亭を飛出して友の居る宿屋へ歸りたるに友は聖書を讀み居られたれば（午前六時）私は震へる心を押鎭めて只今限り禁酒する事を語りたるに友はそれは結構とばかり只私の顏を見つめるのみ、私の其時の顏は如何なりしか昨夜中の泥醉と未明頃よりの覺醒の煩悶と、今友に心事の一端を洩らしたる萬感交々至る時の顏を今日見たく候、自分の大敵たる酒と如何にして暇乞せんかと考へつゝ左の如く出まかせながら書き候。

般若湯奈落の底の夢覺めて
眞の光り身にしみにけり

偖て夫れより禁酒の實行に取りかゝると同時に、尙ほ自分は宗敎も佛敎にて救はれ度思ひ、且つ佛敎には酒につき五戒の敎もある事故、確固たる酒につきての敎へを受けんと漢口なる本願寺を訪ひて、僧侶に會ひ事の顚末を語り禁酒に付きて斷案を求めたりき、然るに僧侶は意外にも大酒せし者が一時に止すは害があるし、酒も少しは好き者なりとの事に私は眞劍なりし故、佛敎の五戒は反古であるか、又惡いと思ふ事でも少しづゝは宜しきや、大金を盜むは惡く少しなら宜しきやなど、大分突込んで尋ねたるに、さらばとて善き木を仕立てるには、雜草木は取り去る必要ある例を話され人間の雜草たるものは取る方がよからんとの話をして下され候、此僧侶常に大分酒を呑まれ候事とて話がにぶるかと存じ候、其

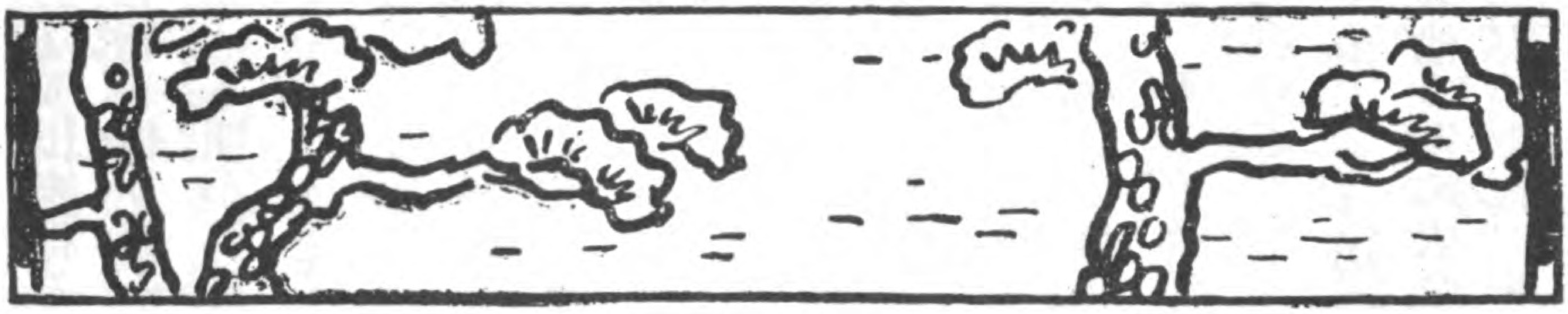
時より出來得る限り基督教につき學ばんと思ひ友の書物を借り讀み、常に友の談と實行の方面を見て段段心も開かれ殊に基督の十字架と、吾等の惡事の仕末を逃れんとするのと眞に雲泥の差ある事等を想ひ旅行より歸りたるに酒の爲信用薄かりし筈の私が禁酒したる爲反つて反對に基督教になれば共に仕事は出來ぬからとの宣告さへ豫め受けるに至りしは、之も攝理とは云へ幾分迷の種になり候、店の受け好き佛教の講話も聞き僧侶にも直接膝詰めに教を求めしも何時もらち明かず候ひし爲、思ひ切つて基督教會に行く樣に致し候、其後酒を呑む事もせず常に聖書など讀み居るを見て妻は却ていぶかりたる程に候ひき、幸にも聖書よりは常に慰めと力を得中にも空の鳥、野の百合の花の教、放蕩息子のたとへ、主は常に共に在し給ふ事等より深き滋味を味ひ「禁酒のすすめ」「平民の福音」「基督信者の慰め」「逆境の恩寵」其他の書に依つて其時々の導きを得申候。

私等は幸ひ東京に歸りし四ケ月間富士見町教會にては植村牧師の說教を聞き、本郷教會にては海老名牧師の暖かき說教と慈顏に接し救世軍の諸集會にて山室大佐の熱烈なる導きに悔改めを新にし大正五年一月上海に歸へりて信仰告白を致し聖名に依つて妻と共に受洗致し候。（以下省略）

□會　告□

◎東京北神保町十四番地の女子青年會館には日本々部と東京支部と有之候につき總て本部に宛てらるゝ通信には日本基督教女子青年會とか、基督教女子青年會本部とか御表記願度候。只女子青年會とのみありては不明了に候間何卒御注意被下度候。

◎本年の夏期修養會も七月中旬より下旬まで仙臺尙絅女學校と神戸女學院とに開催さるゝ事になれり、順序書は五月中に配付すべし。



春のうた

海上龍子

蝶

春風に枝をはなるゝ山吹の花にむつれて飛胡蝶かな

春朝

月落て花かけくらき山の端のねくらなからに小鳥鳴なり

雲雀

櫻かり我かへり來し山の端の花のあたりに雲雀なくなり

夕野邊

かへり見し家路はくれて夕星のかすめる野邊に猫遊ぶ哉

菫

椿さくしつか垣根のつほすみれあけをうはひて花咲にけり

燕

春川のそひの柳のかけゆけは袂くき出て飛燕かな

河春月



若鮎とる冬の小川の瀬まくらにいさよふ月の影そかすめる

春風

たちこめし鳥かねなから花山のかすみも誘ふ春の朝風

春眠

よむ文も夢に見えつゝともすれはねふり催す春の夜半哉

苗代

あらそへる民の心のにこり水ゐせきて入てゆたねまくらむ

春川

花ちりし吉野の春の行末を木の川水もとゝめかねけむ

をりにふれて

あしきをもよきに見なほしきゝなほす直日の神にならはさらめや

また

目うつしにうつる心のよしあしもたゝ一時の見るめなりけり

さかしらに人のまねして信なき身の行は猿にかもにる

安き代にやすく日を經てむくゆへき巧なき身の悔しからすや

夕けたく細き煙も下はえていふせき家も住はすまるゝ

女學校廻り

河井道子

一月二月に東京横濱の支部青年會を皆巡廻しやうと思ひましたが、時間が足らず皆は出來ませんでした。而し訪問した丈の所を皆様に御紹介して見ませふ。

共立女學校では、一月中に役員の選擧があつて相變らず眞面目の氣分か流れて居ります。四月から高等部を廢して、其生徒を新設の東京女子大學に送らるゝさうですから、青年會の役員方も若い姉妹方になりますから、先生方も同情を以て指導さるゝは、うれしい事であります。此學校に行く毎に、何となく我家の樣に思はれて、其日は一泊する事となり夜分親しく數名の姉妹方と協議を致しました。

山の上の城は隱るゝ事を得ずと云ふ如く、東神奈川の停車場に着きますと、すぐ目に止まるは高い**捜眞女學校**であります、訪問した日は小春日とも云ふ樣な氣候で、東京の塵の中から、閑靜な山路を登り行く心地のよさは、知る人ぞ知るであります。横濱市女子青年會のミス・オルチン幹事も、又東京學生部の渡邊百合子幹事も同道で、遠足にでも行く心地で參りました。二人共初めて捜眞女學校を參觀する事とて、「あら、まあ、きれい」の連發ですから燈臺下暗し、とて笑つてあげました。午後三時講堂に於て讃美のもとに、靜に生徒方が列を成して着席されたのは、第一に會の敬虔さを感じさせました。何時行つても氣持のよい學校で、建物と云ひ、氣分といひ人をひき付ける力が御座います。同校の青年

會歌は譜も言葉もきれいで眞に結構なものと思ひます。これにつけても各支部女學校に、青年會歌を作つて頂き度いものと思ひます。此處に深く感謝と感動とを與へたものを御紹介致しませふ。其は此青年會で左の手紙を同校出身者で在學中會員でありし方々に送られた事であります。

「思へば御許樣御在校中は何くれとなく本會のため御盡し下され今更ながら嬉しく存じ居り候、さて現今歐洲戰爭に加へて我國にも女子としての事業益々擴張致され候折から御許樣も昔を御思ひ起し遊ばされ度く此事業に御携はり願たく候。

就ては今回東京横濱大阪盛岡四日市（神戸も此春中）に女子青年會支部設立され候間御許樣の御近傍の支部に御入會下され度く青年會のために御援助下され候はゞ誠に幸ひと存じ申上候、尚御入會御希望の御方は當方へ至急御一報下され度候各支部より御遠方の御方は女子青年會發行の雜誌一ヶ年分金八拾錢にて有益に候まゝ御愛讀下されたく候、此方も其の由當方へ御知らせ下され候はゞ御許樣の御便宜をはかり、直接本部へ御紹介其の他雜誌の手續等一切致すべく候へば何卒至急御返事下されたく御待申居候。

かしこ　捜眞女學校女子青年會」

此書面を本部の委員が拜見して、かく迄も本部を援助し、又卒業生と親しき關係を計らるゝ學校のあるを此上もなく喜び感謝いたしました。

横濱英和女學校　山の上に建てられて遠方からは森影の爲め見えませんが、學校よりの眺望は一層ゆかしう御座います、周圍の桃畑は春の最中を偲ばせ、見渡す畠は微風を想像させます、新たに建てられし校舍は質素の中にも優美と調和の雅致が見え、圖書室の如き學友會のバサーで得られしものを以て家具より裝飾品に至る迄調へられしとか、如何にも居心地よく斯る處に學ばるゝ姉妹の幸福を喜ばしく思ひます。當校の青年會は役員諸姉の和合にて力強く發展致しませう。今は少女の組も如何に導いてよきやと研究中であられました。學校は宗教の働きを成可

く青年會員に委ねられてありますから、役員の任も重い事であります、是非美はしい發展を遂げられる樣に思ふて雨の中を一同に送られつゝ歸途につきました。

フエリス女學校　長い〳〵石段の坂を上るうちは如何にも苦しく思はれますが、上りつめてフエリス女學校の構内に一度足を入れますと、苦は樂の種の古辭を思はせます、上級生と若き先生方と協力して維持さるゝ同校の青年會は今一層盛になる事を期待して居ります、ミス・オルチンを紹介方々集會に參りましたのは二月上旬で、相變らず厚き歡迎を受けました、林先生が昨年米國より歸朝せられましたから必ずよき刺戟を與へらるゝ事と信じて居ります、同校出身者中には教育界、宗教界に立たるゝ婦人も多い事なれば、其名譽ある歷史を愈々輝かせん爲、同校青年會諸姉は何處迄も努力され度いものと常に祈つて居ります。

東洋英和女學校　何時行つても壁に掛けられたる多くの宗教書に目を惹かるゝのは、此校であります。當校の青年會と云ひ、少年禁酒會と云ひ非常な元氣で駿々として延られる樣は如何にも心地が宜しい。少さき生徒方は協力一致で働いて手にあふ仕事を勇んでなし、それが爲會計などが非常に豐かの由愉快ではありませんか。此校の青年會は上級生や卒業後尙寄宿される姉妹方が熱心であるが爲、寄附金等も絕えず諸所に出し、尙餘裕のある樣子は賀すべき事であります。殊に祈禱會が盛んと云ふ事ですから、働きと祈との伴なふ好例を此處に見出されます。校内の掃除の行き屆き居るも心地よく、少さき小學部の少女が園内に遊び居らるゝ樣も、他から行つた者の目を喜ばせます。

青山女學院　青年會集會が何時も日曜の午後にありますので、此校に行く毎に校長先生に晝飯を呼ばれます、卓上常に十人近き外國の先生方に紹介され、話が豐富で如何にも愉快であります。集會の後新役員、委員に紹介されましたが餘り多いので記憶出來

ません。如何にせば教會の禮拜或は校内の宗教的會合に學生が感興を懐くかと云ふ眞面目な問題で火鉢を圍みながら、委員方と御相談致しました、兎角宗教學校にあり易き困難は之でありませう。神の惠に馴れると云ふ樣に聖書や祈禱が古くさう思はれ出して耳新しき文學や科學を珍重がる氣分が彌漫しつゝある樣に思はれます、これは指導者も又學生も深く考へ適當なる道を講ず可き時期と存じます、青山女學院諸姉が是等に心を用ゐらるゝは如何にも結構に存じます、廣き庭をもつ此校は生徒が春の夕暮、靜に祈り考ふるに、最も適當な場所を與へる事でありませう。

大阪梅花高等女學校　未だ本部に加名して居りませんが同校の青年會は、會員數に於て非常に盛んであります、三月上旬某日午後卒業生送別會に臨みまして、年も心も樣子も若々しく見え將來有望であります。二三の先生方が此青年會を指導されて居りますが凡ての事が容易ではありません、幸ひ大阪に市の青年會が出來ましたから幹事等は此學校の諸姉を助け又學校の助けも市の方で受ける事でありませう。彼等の信者有志者はミス・マカウエンより日曜學校教授法を習ひ市中の幾多の日曜學校を助け尚手が足らぬ程であるときゝました。この仕事だけでも同校の青年會は非常な働きをする事であります。

京都同志社女學校　三月十五日に卒業式があると舊役員、委員は重に卒業さるゝ姉妹方故心忙がしく、新役員、委員はまだ會の指導になるゝ暇がありませんでしたが、心からのもてなしで其から其と引續き樣々の集會が開かれました。殊に昨秋組織された青年會少年部は非常な活氣でその二つの聖書の組の如き缺席者が少しもない程だそうであります。何かする事はないかと用事を求められ却て此方が困つた程でありました、之を組織し補導さるゝ年上の青年會員は非常に將來の有望さを解かれたのも、尤もの事であります。早速新役員より本部へとて若干金を幹事に託され春は何時再來するや、如何なる集會を開

く可きやなど幾度も尋ねられ、其熱心に感激した次第でありまず、京都の山の美を集た此校に是非來年あたりは夏季修養會を開いて貰ひ度いものと思ます

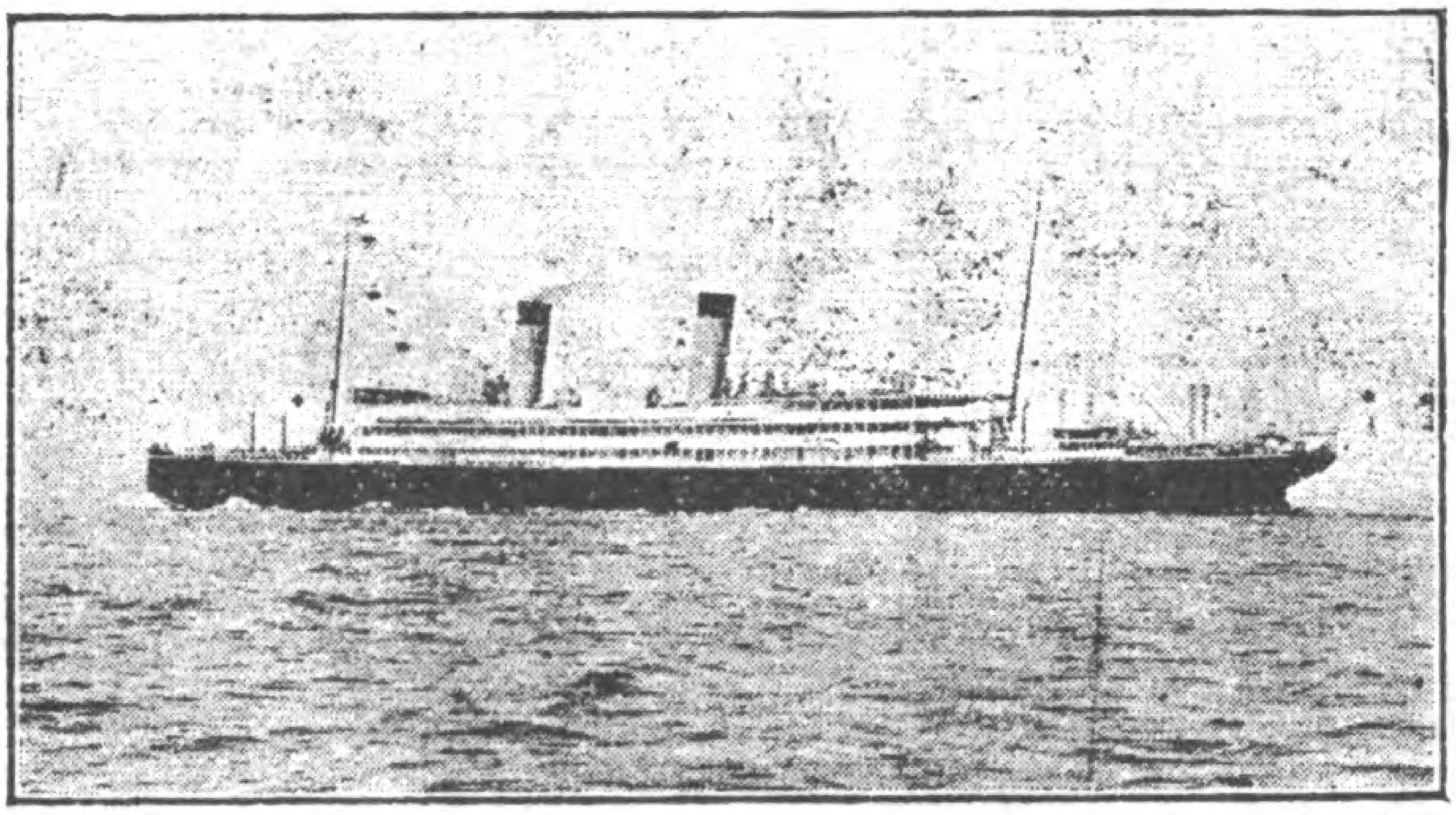
神戸女學院　今日から試驗との其日の夕刻に同院の構内に這入りました、何日行つても塵一ッないと云ふ如き清潔さと、勾配のよい庭園には梅や柳の春を誇顔なる如何にも伸々とした氣持がしました。講堂から五六人の姉妹が飛出し來られて、欽然として迎られました。役員の選擧に、今年度は杉さんが會長ですと告ぐる人に告げられし者もにこ〳〵としてゐました。「先生今年も修養會を此處で御開會下さるのですと實際ですか、大歡迎を致します」、「去年あんなに御面倒をかけましたから、今夏も又とは餘り鐵面皮ですもの」、「其樣ことがありますか、是非御いでを皆で待つてゐます」。かく生徒方の眞心よりの招待をきゝつゝ、西洋の先生方や、國米先生に此夏の修養會を又御相談やら御願やらしましたが、皆樣は大喜で來と申して下さいますから、或は委員は御願ひしましよう。

毎水曜の晩

赤羽修子

毎週水曜日の晩には青年會館で加藤先生の聖書の組が開かれます。晝間夫々の向に働いて忙しい方も夜は多少の自由な時を與へられます。此時を一週一度精神的特別な糧を得る時間として費し聖い空氣を吸ふのは決して無意味な事でないと信じます。水曜の晩となりましてからは約二學期ばかりで御座いますが其間多少の異動はありつゝも次第に其數を增し加へられ淺い乍らも夫々に主なる神の御慈愛な經驗し得る事は何よりも感謝すべき事實で御座います。然し自分の望みを與へられて是のみて滿足すべきでない事は當然のことで受けた喜びは是非共他の方々へも分ち度い。同じ親交も成るべく多くの方面へ及ぼし度い精神は常に主によりて與へられて居ります。けれども私共貧弱な力では是と申す程の事も出來ません。唯其精神丈けでも學び度いと思ひまして去る六日の夜新しい友垣數名を御招きした親睦會を開きましたミス・カフマン・ミスページ、加藤先生をはじめ會集は總べて二十名餘り、簡單なお集りをして後ち一同食卓に用意せられた晩餐を了へ、打ちとけた新しい茶話會にうつりました。加藤先生の新舊友垣の御紹介振り、ページ先生の御話二三の方々のピアノ、餘興など夫々振つたものでした。お互に打ち交つて時のうつるも忘れて樂しみましたが夜の道を歸る人も御迷いますので九時過ぎ散會いたしました。來會の方が特別の仕度もないところでしたが夫々御滿足なさつて喜んで此會館を去られた事は何よりの感謝すべきところ、益々學んで美しい、親しい御交りを心の方面につくり度いと切に祈ります。

東洋汽船株式會社



本社 東京市麴町區永樂町一丁目一番地（電話本局四〇八〇、四〇八一、四九六一、一五三一番）

營業所 横濱市山下町四番（電話四四〇〇、四四〇一、四四〇二、四四〇三、四四〇四番）

出張所 神戸市京町八三番。香港、キングス、ビルヂング
上海四川路ノース、チャイナ、インシユランス、ビルヂング
マニラ チヤコビルヂング、桑港、マーケット街六二五、マーチヤンツ、ナシヨナル、バンクビルデング

北米航路（桑港、布哇、横濱、神戸、長崎 上海、マニラ、及香港間）

本航路は太平洋航路中氣候温和、海上平穏なること第一にして船舶の巨大、設備の完全、待遇の懇切とに由り航海最も安全且つ愉快なり

天洋丸	三重螺旋タービン機	排水量	二二、〇〇〇噸
春洋丸	同	同	二二、〇〇〇噸
コレヤ丸	双螺旋機	同	二〇、〇〇〇噸
サイベリヤ丸	同	同	二〇、〇〇〇噸
日本丸	同	同	一一、〇〇〇噸
波斯丸	同	同	九、〇〇〇噸

南米航路（香港、門司、神戸、横濱、ホノルル、桑港 羅府、墨國、巴奈馬、秘露及智利諸港間）

本航路は東洋南米間唯一の定期航路なり

安洋丸	排水量	一八、七〇〇噸
紀洋丸	同	一七、二〇〇噸
靜洋丸	同	一四、〇〇〇噸

各寄港地及各國樞要都市に代理店の設置あれば船室保留並に發着日割等は最寄に就て御問合せを乞ふ

東京女子青年會の昨今

加藤高子

東京青年會　會員及寄附者募集運動報告、是は本部及東京支部合併の催しなり、各部とも一ヶ年間に多額の維持費を要す、此の費用を得ん爲の方法として共同一致を以て短時日間に働くは最も効果多くあらんとて三月の一ヶ月間を期して一千名の新（維持及特別）會員及年額寄附者を募集し凡そ五千圓の金額を得ん目的をたて既に運動を開始せり、其方法としては昨年は主に學生會員諸姉の大努力にて好結果を得たれば今回は百名の御婦人を此期間の委員に御依賴し、各十名の新會員を募集せらるれば目的の金額を得らるゝ筈なり、依つて幹部にては新舊友人を訪問して六十九名の御婦人より快諾を得たり、四日午後二時より會館にて委員會を開き河井幹事より會の維持法等につき詳細の説明あり且又色々の打合せをなし祈と信仰とを以て活動せんことを約して散會したり。此の運動に用ふる爲め會の事業一班三千部を印刷したり、此日までに三四名の委員より通知にて五十名の新會員を得たり、なほよき報告を次號に報知すべし。

英語社交會　二月廿日（金）午後六時より夕食を共にし七時より男子青年會幹事ミスター・デビスの御講話を伺ふ、同氏は東京市深川本所兩區の貧民窟に關しては詳細に視察研究を積み居れば我々の想像以上の憐れなる又同情すべき生活につきて御話ありたり、又是が救濟方法等につきても同氏は眞面目に考究せらるゝを伺ふても我々同胞の其邊の事狀に疎遠く又研究心なきを遺憾に思ひたり。

祈禱會　二月廿四日（日）萬國基督教學生祈禱日なるを以て本會にても同じ趣意にて祈禱會を開きたり渡邊幹事司會、河井總幹事の力ある奬勵の後熱心なる祈禱ありて閉會す。當日は女子學院生徒有志者は

美しき合唱を以て援助せられたり。

親睦會　三月九日(土)午後二階應接間にて開く、試驗の時期にもかゝはらず三十五六名の出席者あり暖かき火をかこみて遊び唱ひ、語りて樂しき半日を過ごしたり。

慰勞會　三月十六日(土)午後五時半より麹町區本局電話局交換手等を招待して此の催をなしたり、折惡しく大雨なりしも七十名餘の姉妹等は晝間の繁雜なる仕事を終へ元氣にて來會せり、二三の讃美歌を唱ひてより河井先生の十五分間歡迎及奬勵の御話の後祈禱を以て終り茶菓に移る、當夜は三寄宿舍生有志者は各々面白き隱藝の餘興を以て一同を歡待し、終りに一同にてボールまはし等の共動遊戲を樂しくなし八時閉會せり、非常に滿足と喜びをなし得たりとて翌日早速御禮の御電話ありたり。斯くの如く女子青年會は各階級の姉妹等をつなぎて友情を暖め又相互に奬勵し且社交の道を講ずる場所にて電話局の如しとなほ益々本會は學生以外の多くの姉妹等と關係を密にし親交を結びたき希望なり。

寄宿舍卒業生送別會　本年三寄宿舍で卒業せし者廿二名あり九校を代表す、彼等の中九名は信徒にして、他は大概求道者なり。廿二日午後六時半より祝賀と送別とをかねて、親しき集をなす。寄宿舍にての經驗談や、感話など最も有益なりき。土井さはゑ姉は岡山縣高梁に、小澤ため子姉は九州長崎活水女學校に、森貞子姉は大阪梅花高等女學校に奉職さるる事となり、他は東京にて尙研究さるゝ方と、鄕里にかへらるゝ方とにて何れも慶賀すべき極なり。

女學生歡迎親睦會（會告）

四月十三日土曜日午後二時より神田女子青年會館にて新學年のため上京されし姉妹方を迎へて親睦會を開催せんとす。會員諸姉は可成知人友人を誘導され御來會あらんことを乞ふ。尙開會以前に友人方を本會幹事等に書面を以て御紹介あらば喜びて歡迎の準備をなすべし、又新しき思付などあらば、是非御知らせ下され度きものなり。本會は何處までも女子青年のためになることを御記憶あらんことを乞ふ。

小女欄

小事に正しき者

私共は大な僞や、大な不正を言つたり仕たりはしませんでも、小な虚言を平氣でいつたり、小な不正直なことを仕ても氣にしないことが度々あります。聖書には其を戒めてあります、神樣にとりては善惡の大小でなく、其質を以て御裁判になります。小事に正しければ大事にも正しく、小事で正しからぬものは大事にも正しからずとエス樣は申されました。又貧乏な婦人が僅の金を寄附したのも、富豪が澤山したより御賞になりましたなど良い例です。

爰に私共が氣を付けぬと知らずして不正直をする事があります。其は時々手紙の三錢切手に消印が付いてゐないことがあります。其を丁寧にはいで、又使ふことがありませんか、是は正しいことでしようか。一寸考へると、消印がないのは局が惡いので、又新しい切手を捨てるのは、勿體ない樣にもおもはれますが、其を使用するは不正直であります。必らず破つてしまうのが正しい事でありますから、氣を付けなくてはなりません。

又電車など大混雜なときに、切符を車掌に渡すを忘れた時や、車掌が取らなかつた場合も同じ事で、是非其切符は破ぶるべきものであります。こんな事は普通の人からみたらば、愚な事だと云はれるかも知れませんが、小事に正直でなくば、終には大事にも不正直な者となります。私共は良心を清くしておいて、物の善惡の區別が明了わかるやうにしたいものです。其には常に神樣の前に居るつもりが大切で

す、神様が御覧ゆゑと思ひますと、人の眼の前の事のみをしない様になります。心の清きものは幸福なり、其人は神を見るべければなりとあるやうに、清い心の神をよく知る人は心の清い人であります、清くなる道は小な事から正直にして行くことで、言葉にでも正直なことを申して、小な虚でもさけるやうにしなくてはなりません。

春子の夢

野邊地天馬

美しい太陽の光は、寒い冬を追ひのけて、春の使者を送りましたので、今まで雪や氷のために縮かんでゐた草花も、木枯のために隠れてゐた木の芽も嬉しがつてお使者を迎へました。

使者はよろこんで

「オヽ、菫さん本年も精だしてよい花をお咲かせなさいよ、まあ、チユーリツプさん、お久し振でしたのね……」

と愛憎よく皆々を励してくれますので、大よろこびでした。

そして太陽はこの下界の草花の育つのを喜んで毎日暖い光を浴せてくれますから、草も育ち、木の芽も萌して、野も山も畑も、綺麗な春の色に染められました。

「あゝ、良い景色だこと」

と、毎日、見なれた景色ながら、日に〳〵美しくなつてゆく四圍の光景にみとれて思はず言ひましたのは、十四になる春子、今日も耕作の手傳に畑に來てゐたのです。

春子は三月の末、尋常を卒業しましたので、これから家の仕事の手傳をし、お母様の片腕ともなつて、小さい弟や妹の世話をもすることになりました、春子はこの四月になつて浸々お父様の亡くなつた事を悲しく思ひました。

「あゝ我家にもお父様があつたら……澄子さんの様

に女學校に上れたかも知れない……イヤ、あがれたものを」

と、幾度思つたか解りません。

澄子さんは春子の友達で、一しよに尋常を卒へて、半月ほど前、横濱の女學校へ行つたのです。

「澄子さんは今頃どうしてゐらつしやるかしら」

またしても、南の空にかすむ柏岳の方を望んで、考へつゞけました。すると春子の心はたまらなくなり、熱い涙がポロ〳〵出てきましたから、暫し仕事の手を休めて、近くの草原に腰をおろしました。あたりは靜かでした、たゞ天空高く雲雀がのどかに囀つてゐるばかりです、白い雲が羊の群のやうな形して動いてゐます。

春子は考へるともなく思ふともなく、暖い光に照されながら、澄子さんをステーションに見送つた時のこと、日曜學校の先生が、

「エス樣のために盡す立派な人になつて下さい」

とお勸めになつたこと、お父樣が澄子さんに附添つて横濱まで行かれたことなど、取纏めもなく考へてゐる中に、ウツとりとしてまゐりました。

すると誰やらが、後方から

「春ちやん、〳〵」

と、呼びます、「オヤツ」と驚いて振向けば、何時の間に、何處から來たか、一臺のお馬車が來てゐて呼ぶのです、まアどうしてと不思議に思ひながら、おそる〳〵側へ寄ると、中に乘つてゐるのは日曜學校の繪にあるとソツクリな天の使です。急いで逃げやうとすると、天の使は

「春ちやん、用がありますから逃げちや いけません！」

と、申します、春子は改まつて立留まると、

「春ちやん、あなたは何をそんなに歎くんですの、エス樣はあなたの歎くのを心配してゐらつしやいます、……エス樣はあなたを可愛つてゐらつしやるのですから、澄子さんばかりは幸福で、あなたが不幸なのぢやありません。

あなたがお父樣に別れたり、女學校に入れなかつたりしても、それは不幸ではありません、エス樣はちやんと、あなたの爲を考へてゐらつしやるのです。

將來にお父樣に會ふ時もあるのです、正直に熱心にエス樣を信じて世を去つたお父樣は天國に居なさるのです。……ですからね、そのうちに貴女はナル程さうだと私の言つたことを思ひあてる時が來ますよ」

と、言ふかと思ふと、お馬車はトットと上に昇りはじめました。

春子はアレ〳〵と縋らうとしました、その大きな自分の聲に目を醒ますと、それは夢でした。

「おや、私ねむつたのかしら、奇態な夢だつた」

と、驚きましたが、春子は深く感じたと見えて、

「私は未だ信仰が弱いの、まだ〳〵エス樣がどんなに私をお愛し下さるのか解らない……私はモットモット聖書を讀んでエス樣を深く信じませう」

と、心に契ひました。

女兒の祈（實話）

神樣あたしをいゝ子にして下さい、きかんぼうにならないやうに氣をつけて下さいまし。あしたの朝起きた時、マヽが病氣でないやう、今夜中マヽを守つて下さい。こわい夢を見ないで、面白いゆめを見させて下さい。あたしが寢て居るまに火事のないやう泥棒のはいらないやう、鼠があたしをかぢらないやう願ひます。マヽのないこをかあいがつて、子のないマヽを慰めて下さいまし、エス樣のためにきいて下さいまし、アーメン

わかき獅子は乏くして饑ることあり然れどヱホバをたづぬる者は嘉物にかくることあらじ、

汝の荷をヱホバにゆだねよされば汝をさゝへたまはん。

わが母われを生しときより汝は我神なり。

赤い胸の駒鳥

愛子

始めて神様が此世界を創造なされた時に只に天地を造られた計りでなく凡ての動物と植物とをも造られ、そして皆それ〴〵名を付けられました。

或日神様が樂園に座し給ひ小鳥の羽を彩つて居られましたが神様の繪具壺の繪具が缺乏して來て金翅雀の羽は刷毛に殘つて居た繪具でやう〳〵間に合はせた位、さもなければ危く無色鳥にされる處でした。

其時でした、驢馬が長い耳を貰つたのは、彼は付けて頂いた名前をどうしても覺える事が出來ないで樂園の牧場を出てから二三歩行くともうすつかり忘れて仕舞ひ再び三度も戻つて來て何て名前だつたかと聞きました、とう〳〵神様も少し地烈度くなつて、

「お前の名前は驢馬〳〵〳〵。」と仰しやりながらもつと驢馬がよく物を聞き又云はれた事をよく覺える樣に兩方の耳を長く引張り出してやりました。丁度同じ日に蜂も叱られるのでした。

蜂は造られると直に密を集め始めました。處が其蜜が如何にも甘そうな香なので人間だの獸だのが一寸嘗めて見度くなつて集まつて來ました。然し蜂は其蜜を自分計りで食べたかつたので彼の巢に近づいて來る者には毒針を振り翳して追ひ拂ひました。神様は之を御覽になり蜂を召して御罰しになりました。

「蜂よ、お前には創造れた物の中で一番甘い蜜を集める才能を與へたが他人を苦しめる權利は授けてはない、何時でもお前の蜜を嘗めに來た人を刺した時にはお前も生命がないといふ事をよく〳〵覺えてお出で」と神様はおさとしになりました。

寛大な柔和な神樣は樂園で終日計畫し、創造して夕暮になつてから灰色の小鳥をお創造なさいました。
『よく覺えてお出よ、お前の名前は「赤い胸の駒鳥」といふのですよ』と神樣は小鳥に云ひ聞かせて掌の上から飛ばせて遣りました。

駒鳥は羽ばたきをして翅を試めしてとびあるき此世の美しい物を見、自分は何に似て居るだろうと考へ始めました。彼は一體に何處も彼處も灰色で胸も其通りでした、駒鳥は首をひねつて水鏡に寫しながらあちこち眺めましたが赤い羽なんて一本だつて見當りませんでした、そこで彼は再び神樣の許に飛んで行ました。
神樣は今しも其御手からは胡蝶が出來上りまして頭の邊を飛び廻つて居ます、鳩も肩の上に止まつて居る御側には薔薇や百合や雛菊なぞが咲き揃つて居りました。駒鳥は神樣に近づきてはく〳〵ながら神樣の御手の上に一寸止まりました、すると神樣は小鳥に「何か用か」と御尋ねになりました。
『私は一つ御願ひ申し度い事が御座います、何故私は全身灰色だのに「赤い胸」といふ名なのでせう、一本も赤い羽もないのに赤胸なぞとなぜ呼ばれるのでせう』『小鳥は小さな黒玉の樣な眼で神樣の顏を物尋ね顏にのぞき込みました見れば丁度彼の目の前には金泥交りに全身赤い雉だの、見事な赤い首飾をかけた鸚鵡や、鷄の赤い櫛だの申分のない胡蝶だの金翅雀や薔薇が並んで居ます。そこで彼は『何て自分はつまらない者だろう、たつた一本でもいゝから赤い羽が胸の上にあつたなら嘸まあ自分も美しい鳥であろうに、そして名前にも相當はしいのに!!!『私は全身灰色だのに何故赤い胸といふのですか』と再び神樣に尋ねて見ました。
『アヽそうだつたね、私はお前の胸の羽を赤く染めるのを忘れたのだよ、然し暫くお待ち、其内に赤くして上げるから、神樣は尚も微笑みながら、
『お前の名前は赤い胸の駒鳥といふのだつけね、赤胸駒鳥とはお前の名前、然しお前は自分で赤い胸になる

様に奮發して工夫して御覧、」神樣は御手を上げて再び小鳥を飛ばしてやりました。

彼は樂園に下りて來て深き思案に沈みました。彼の樣な小鳥が自分で赤い羽にならふとしたら如何したらいゝのでせう、只一つこれならば、と思ひ付いた事は自分の巣を茨の藪の中に作る事でした。薔薇の花瓣が胸のまわりに散つて來て赤く染めるのを待つといふのでした。

× × × × × ×

最も樂しかつた黃金時代は過ぎて世は幾星霜を經た後となりました、人類は既に土地を耕し海に漁る程に進少して、衣服を身にまとゐ、裝飾物をつけて、ローマ・ジエルサレムの樣な大都市を造る事をも知つたのはよほど前の事だといふ程に進んだ世の中となりました。

× × × × × ×

或朝の事、駒鳥はエルサレムの城壁の上に座つて雛鳥に歌を唱つて聞かせ、また驚くべき創造の日の事や如何に神樣が凡ての物に名前を付けたかといふ事、その先祖が、神樣のお言葉を聞き、神樣の御手から飛ばして頂いた駒鳥の時からの事を聞かせて居ました。

「この事をよく覺えてお出よ、その創造の日からはもう隨分多くの年月も立つたし、薔薇の花も咲き、雛鳥も甦つたが、我等赤胸駒鳥はいつもながらの灰色の小鳥であります、未だ赤い羽になる事が出來ない、」と悲しげに云ひきかせました。雛鳥等は口を揃へて、先祖の祖父鳥や祖母鳥は何でもない、一生懸命に骨を折らなかつたからだろうと聞きました。

「それは〱出來る丈けの力は盡したんだがね、どうしても失敗に終つてしまうのだよ、一番始めの駒鳥さんなぞは或日丁度自分と同じ樣によく似た鳥に出遇つて直に其鳥に戀して仕舞ひました、其切ない戀の爲め

に胸が燃えるかと思つた程で、それで彼はハタと膝を打つて、

「アヽこれで解つた、私は胸が燒ける程熱心になるとその熱で此灰色の羽が赤くなるといふ神樣の思召なのだ、そうだ〳〵」といつて居たが、然し彼は失敗に終りました。それから幾羽も〳〵子孫が皆失敗に終つて未だに成功はしないのだよ。雛鳥達は到底灰色の胸は赤くならないと見込んで皆落膽し切つて居ました。親鳥は又言葉を續けて。

「歌を唱つたなら好かろふかとも思つたそうで先祖は胸が腫れ上がつて仕舞ふ迄歌をうたつたんだがこれも無爲だつたんだよ」聞いた雛鳥は深い溜息を吐いた、親鳥は

「腕力とか勇氣に訴へて見たらと他の駒鳥連は隨分勇敢しく他の鳥と戰かつて終ひには戰勝の誇で胸から焔が出る樣に思つた位だつたつて、「こんなに戰爭好きで胸が燃える程なのだからきつと胸の羽も赤くなるに違ひない」といつて居たがこれもうまく行かなかつたんでね」雛鳥共は目を見張りながら戰ひに出て大成功を建てる樣な樣子で乘り出しました、親鳥は「到底無爲だ」よといひ聞かせました、こんなに立派な先祖達が皆失敗したんだから、自分達の樣な者は一體どうしたらよいのだろう？ 戀と歌を唱ふ事それから戰爭をする事以上に何が、出來るだろう、』フト目を上げるとエルサレムの市街の門から今しも此方に向つて行列が出て來ました。馬に乘つた嚴めしい官人だの、長い槍を持つた兵士、獄卒共は手に釘や槌を持つてやつて來ます。行列の中には裁判官や僧侶も見えるし、婦人の群は泣きながらついて來ます、その周圍に暴民が狂氣の樣にワイ〳〵騷いで來ます。

灰色の駒鳥は自分の巣の中から此樣子を震ゑながら見て居りました、巣の中で皆んなが震へて居るのでその震動で巣が下に落ちて小鳥共が死ぬ樣な事はないかと恐れた位でした、親鳥は小鳥に

「氣を付けて、ぢつと靜かに一所にかたまつてお出よ、そら馬が來たよ踏まれると大變だよ、軍人が鐵造りの靴を履いて！　まあ何といふ恐ろしい暴族だろう、」親鳥はハタを言葉を止めて今にも降りかゝつて來る危險を忘れて暫く茫然と眺めて居ましたが、

「まあ何と恐ろしい、この樣な恐ろしい光景をお前達に見せ度くない、三人も十字架に付けらるとは何たる事だろう、」彼女は子鳥等がこの樣子を見ない樣に翼をひろげてかくしたので彼等は槌の音や呻き聲、暴民の狂ふ叫びを翼の下で聞いた計りでした。赤胸駒鳥は非常に恐怖に襲はれながらこの恐しい光景、三人の囚人の樣子を見て居たが暫くして、「何と殘酷な人間であらう、哀れな囚人を十字架上にさらすばかりでは飽き足らないで殊にあの眞中に居る人の頭には茨棘の冠を被せてあるあんなに鮮血に塗れて居るのは茨棘で突き刺した創口から流れて來るのだろう、此の人は何となくなつかしく思はれる柔しい顏付をして居る、私は彼の苦惱む樣子を見るに忍びない、」彼は棘茨の冠を被せられて居る人が氣の毒でならなくなりました、「私がもし兄の鷲の樣であつたなら、彼の手から釘を拔き取り、迫害者を皆追ひ散らしてやるがなあ」見れば十字架上の人の額から血がほとばしり出て居ます、鳥はもう我慢が出來なくなつて、「例へ自分の樣な纖弱い小鳥でも何か此苦惱しむ人の爲めにして上げる事はないかしら」こう考へながら巢から放れて大きな圓を畫きながら十字架上の人の上を飛び舞ひながら、どうかして其人に近付かふとしました、彼は元來臆病鳥でとても人間に近付く樣な勇氣を出した事はなかつたのです、けれども思ひ切つて勇氣を鼓して漸次〳〵と彼に近付きとう〳〵十字架上の人の額からグサと刺さつて居た茨棘のとげをその小さな嘴で拔きとりました。鮮血の滴は十字架上の人の顏から流れ出て小鳥の胸の羽を一ぱいに眞赤に染めました。十字架上の人は小鳥に囁きました。

「お前のその同情にめんじてお前の種族が世の始めから得樣と希つて居た物を授けてやるぞよ」

彼が巣に歸つて來ますと雛鳥等は

「お母さんの胸が赤くなつた、薔薇の花より赤い、」

「これは氣の毒なお方の血の滴だ、池の泉の中で洗ひ流して仕舞へば直に落ちるだらう」

小鳥はいくら池に行つて水を浴つても赤い色は落ちなかつた、そして雛鳥が大きくなつた時にはその胸の羽は眞赤になつて居ました。その時に赤くなつてから今日に至る迄みなさんが御覧の通り、駒鳥の胸は赤いものとなり、なつたものだと申す事です。

寄宿舍の經驗

女子職業學校卒業生　花島幸子

私は女子青年會など少しも知りませんでした。昨年の春頃青芳先生から、神田會館を敎へて貰ひましてからは、聖書の組に出席するのが大相樂しく、學校では課業で時間がかゝりましたが、聖書の組には可成出ました。秋から寄宿舍に御世話になりましたが、何とも云はれぬよき氣分が充ちて居り、舍に毎日歸ると氣が伸々いたしました。是から靜岡の在にかへりますが、何でも出來る事をしたいものだと存じます。決して遊びたいとは思ひません。

電話と振替

東京市神田區北神保町十四番地
日本基督敎女子青年會本部
電話本局五九八番
振替東京貳參七貳參番

「女子青年界」定價及廣告料

定價（郵税共）	一部	一年前金
內地	金八錢	八拾錢
海外	金拾壹錢	金壹圓貳拾錢

廣告料	
一回掲載	
一行	金五拾錢
四分一頁	金五圓
半頁	九圓
全頁	金拾五圓
年極又は回數により割引有	

大正七年三月廿八日印刷納本
大正七年四月一日發行
發行所　神田區北神保町十四番地　日本基督敎女子青年會
發行兼編輯人　神田區北神保町十四番地　河井道子
印刷人　芝區櫻田和泉町七番地　前川吉太郎
印刷所　芝區櫻田和泉町七番地　三成舍

Committee to live with Miss Hard, continuing her language study there, and helping as she can in the association in the summer. The address of the Osaka Y.W.C.A. is 279 Higashi Umeda-cho, Kita Ku.

Tokyo.

Seventy girls from the Honkyoku office of the telephone exchange were entertained at the building Saturday night, March 16th. Miss Kawai made a short talk, and the dormitory girls from each of the three dormitories provided one number of the entertainment, and afterward the girls all played games. They were invited to come once a month for such a gathering, and they were evidently much pleased.

Thirty one girls from the three dormitories are graduating from the various schools in Tokyo this spring. On the evening of the 22nd of March there was a farewell meeting for these girls. They talked over all that their school life had meant to them, and discussed plans for keeping in touch with Christian work in the future.

The National and Tokyo Associations are uniting in a joint campaign to raise their budgets for the rest of the year. Seventy committee members are working to secure one thousand sustaining members.

Plans are progressing very nicely for the beginning of work in Oji, where there are ten thousand women employed in factories, and nothing is being done for them. Mrs. Tamaru who has had experience in factory work and is also a trained nurse is to live in Oji from the first of May, and in the fall the association expects to begin definite work for girls and women. Several of the factory directors have already been consulted concerning the work and are very cordial in their encouragement.

Six nurses from a hospital in Kanda were recently introduced to the association by a Christian man who had been a patient there, and felt the necessity of a safe place for nurses to go in their leisure hours. The nurses have spent several evenings in the association since that time, and it is hoped little by little to work up a large constituency of nurses, who will make use of the association, and will in time come also to understand its Christian purpose. One of the Bible classes meeting on Wednesday evenings recently gave a supper for these nurses and spent the evening entertaining them. The girls afterwards wrote that the nurses in the hospital could talk of nothing else for days afterward.

Mrs. Imanishi, who returned from America in December, recently gave a talk to twenty-five or thirty of the older members of the association on what women are doing in war work in the United States.

Mr. Giichi Masuda of the Jitsu Gyo no Nihon recently gave one hundred yen to buy a typewriter for the commercial class we hope to open in the fall.

The girls in the Nandomachi Dormitory recently enjoyed an address by Mr. Daniel of Persia. Mr. Daniel left his family in Persia while he returned to the United States. For a long time he could find no trace of them. Cablegrams and letters were of no avail. He left America with the determination to find his family in Persia. While in Yokohama he went to the International Hospital to visit a sick friend, who had brought refugees from Persia, and was on his way to America. From this friend he learned that his family was in Yokohama. Mr. Daniel had four children, two of whom were killed in Persia, and one died from measles, leaving him only one son.

Kobe.

On Monday evening March 19th Miss Kawai and Matthew presented the plan of organizing an association in Kobe next autumn to the Shin Wa Kwai (The Ministers Association) of Kobe. We are glad to say that this assoociation approves the plan.

THE YOUNG WOMEN OF JAPAN

(JOSHI SEINEN KAI)

VOLUME XV APRIL, 1918 NUMBER 4

Kobe College has most generously consented to allow the association to hold a conference there again this year, July 16 to 24. Everyone who was present at the conference held there last year will remember the cordial reception given to us by the Kobe College Y.W.C.A. and the teachers of the school, and their careful consideration for our comfort and convenience throughout the whole conference. We look forward with great pleasure to returning there with a conference this year.

A second conference will be held at Shokei Jo Gakko in Sendai, July 24 to 31. This school belongs to the Baptist Mission Board. Its new buildings were dedicated during this past year.

Osaka.

The promoting committee of the Osaka Y.W.C.A. has been organized with twenty-four Japanese ladies and four foreign ladies. Provisional officers have been elected to hold office until the summer of this year: President Madame Asa Hirooka; Vice-President, Mrs. Ishigami and Mrs. Tsune Otsuka; Treasurers, Mrs. Sue Takayasu and Mrs. Tomi Sakabe. Sub-committees for religious work, educational classes, finance work, social service, social meetings and secretarial consulation have been appointed and are at work. It is planned to hold a large meeting for girl students and business girls on the afternoon of the 27th of April. Two thousand girls are graduating from the various high schools of the city this month and the association plans to concentrate its first efforts upon these girls. At this meeting it is planned to have a chorus from the three mission school associations of Osaka (Pool's Jo Gakko, Wilmina Jo Gakko and Baika Jo Gakko) trained by Mr. Allchin.

Before beginning regular work this Promoting Committee made a preliminary investigation of conditions in the city and discovered the following facts:—

1,341	telephone girls	300	post office girls
28,439	factory girls	691	grammar school teachers
132	high school teachers	202	special school teachers (art, etc.)
973	trained nurses	829	nurses without training
3,739	girls now in high school	573	girls in business offices

The association already has six Bible classes; four English classes, besides private pupils; a class studying social condition in Osaka; a choral class for hymn singing; a basket ball class one afternoon a week; one Sunday School; factory visitation one night a week; one social afternoon each week; a monthly vesper service.

The Promoting Committee decided to raise a budget of at least Yen 3,000 by June of this year. Mrs. Kame Hirooka and Mrs. Taki Shidachi, who formerly resided in Osaka, gave between them Yen 200 to make the beginnings possible. Mrs. Asa Hirooka has just made a gift of Yen 50 for office furnishings. The first gift for an endowment fund for Osaka was made by Mrs. Suma Hoshino.

Miss Clara Hard is now General Secretary vice Miss Ruth Emerson resigned. Miss Inez Crawford has been sent by the National

二

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

和本

▷舊新約全書の研究
ハールバット博士著 1.3[illegible]–.08

▷マルチン、ルーテル
武藤 健著 .45–.04

▷緋文字 佐藤 清譯 1.30–.08

▷通俗耶蘇一代記
櫻井成明譯 .60–.06

▷風雲（兒童問題の將來）
平瀬龍吉著 1.30–.08

▷救の話 コルテス著 .30–.04

▷歴史的耶蘇 宮崎小八郎譯 .30–.04

▷基督教と近世思潮
萩原淸次郎著 .6[illegible]–.06

▷スポルジョンの生涯
平瀬龍吉著 .3[illegible]–.04

▷基督教の耐實行性
柏井 園譯 .8[illegible]–.06

▷パレアナ 廣中つち子譯 .35–.04

▷日曜學校教授法
賀川豐彦譯 .7[illegible]–.06

▷單級制日曜學校の發達
コールトン著 .0[illegible]–.02

■聖書及讃美歌
■日曜學校教材一式

文具

新着舶來萬年筆
"Wat rman" "Remex" ¥4.00 to 10.00

和洋書翰紙及封筒
同手帳及封筒
同鉛筆及インク
紙綴器及文字浮出器
タイプライター及附屬品種々

洋書

Bible History of the Old & New Testaments…B. J. Spalding. 1916…….40–.02
Birds Shown to the Children…M. K. C. Scott…………1.40–.08
Christ. A Life of Jesus in Modern English…James Smith…….45–.02
Christ and the Young People…Francis E. Clark 1916…………1.10–.08
Christian's Secret of a Happy Life…Hannah Whitall Smith…………1.10–.0[illegible]
Correct English Daily Drill Book…Josephine Turck Baker…………2.75–.08
Correct English How to Use It: A Complete Grammar…………2.75–.08
Faith, Fellowship and Fealty…Cleland B. McAfee…………….25–.02
How to Live on 24 Hours A Day…Arnold Bennett 1916…………..75–.04
How to Tell A Story and Other Essays…Mark Twain…………3.85–.12
Jesus-Teacher: Principles of Education for Both Public and Bible School Teachers…Frank Webster Smith 1916…………1.10–.08
Knowledge of General Science…1916 …………2.75–.08
Life of Christ for the Young…George Ludington Weed…………1.65–.08
Literary Taste…Arnold Bennett 1916 …………..75–.06
Love Made Perfect…Andrew Murray …………..55–.04
Master's Indwelling…Andrew Murray…………..80–.0[illegible]
Mind of God…Elwin L House 1917…………2.20–.05
Modern Business English…Carrie J. Smith & D. D. Mayne…………1.75–.08
Seven Secrets of Success and Other Talks on Making Good…Madison C. Peters 1916…………1.65–.08
Shepherd Psalm. The…F. B. Meyer …………..65–.04
Spirit-Filled Life. The…Rev. John Mac Neil…………..35–.02
Statement of the Christian Faith, A…Herber H. Kelly 1916…………..45 .04
Temptation What It is, and How to Meet It…Philip E. Howard……1.10–.08

御用の節は「女子青年界」の廣告で見たと御申添下さい

腸内の病原菌を死滅せしむる唯一の

整腸常備藥 ラクトスターゼ

長壽保命の要素と稱せられたる乳酸菌の製劑たる本品は腸内に繁殖する各種の病原菌を死滅せしむる作用あるのみならず、腸内の腐敗醱酵を制止し、下痢便秘等を豫防治癒せしむる効顯著なる爲め總ての腸疾患小兒の消化不良等に對し整腸藥として賞用せられつゝあり。

傳染病研究所に於て目黑氏の實驗報告に據ればコレラ菌は二分間、チフス菌赤痢菌は十分間に乳酸菌培養基にて死滅することを證せられたり。

▲粉末錠劑の二種あり、各地藥舖に販賣す、實驗報告あり贈呈す。

脚氣に賞用せらるゝ

「オリザニン」

本邦蛋白化學の泰斗鈴木博士創製の本品は貴重なる新營養劑にして、白米食に因する營養不給殊に脚氣樣症狀に賞用せらる鈴木博士其他の實驗報告を綜合するに食品中本劑の成分を缺除せんか漸次營養不良となり遂に倒死する事實を動物試驗に依り實證せられたり。

故にオリザニンは營養劑として脚氣、小兒の營養不給、食慾不振、産前産後及病中病後等の營養劑として好適する事を確證せらる。

▲液劑百五入、越幾斯劑四十五瓦入の二種あり

▲實驗報告書御申越次第贈呈す

東京室町

三共株式會社

女子青年界第拾五巻第四號（毎月一回一日發行）
大正十年三月廿八日印刷納本 大正七年四月一日發行 明治卅七年五月七日第三種郵便物認可